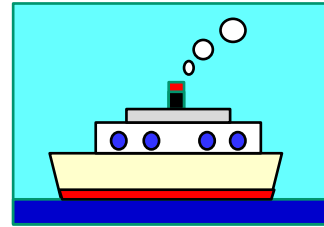


4. オーロラビジョンの誕生と影響

4-1 . オーロラビジョンの誕生



背景: **オイルショック**⇒組織存続をかけた**長崎の船舶技術者の挑戦**

契機: 国内球場フルカラースコアボードの商談(本社)

発光素子の検討: 白熱電球; ⇒**船舶技術者のCRT着想**

消費電力20w以上/素子 ⇒ 消費電力2w/素子

社内技術の結集: (1978年～)

- ・開発推進: 本社(東京)
- ・発光素子: ブラウン管技術(京都)
- ・画像処理: プラズマディスプレイの技術(中研: 尼崎)
- ・構造設計・信頼性・システム: 船舶システムの技術(長崎)



筆者撮影

 大リーグ商談を契機に開発の加速

試行錯誤と商談

商談成立(1980年2月)

条件: MLBオールスター戦で使用(1980年7月)

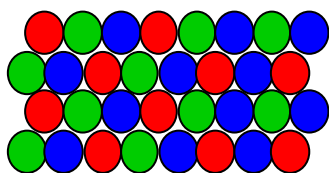
28mm φ 光源管



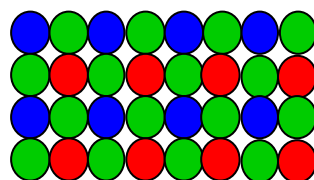
筆者撮影

反射大: 太陽光下で表示が見えない

超短納期の初号機



プロト機



初号機

三菱電機資料

光源管は着色

ユニットは構造変更



三菱電機資料

ユニットの例



三菱電機資料

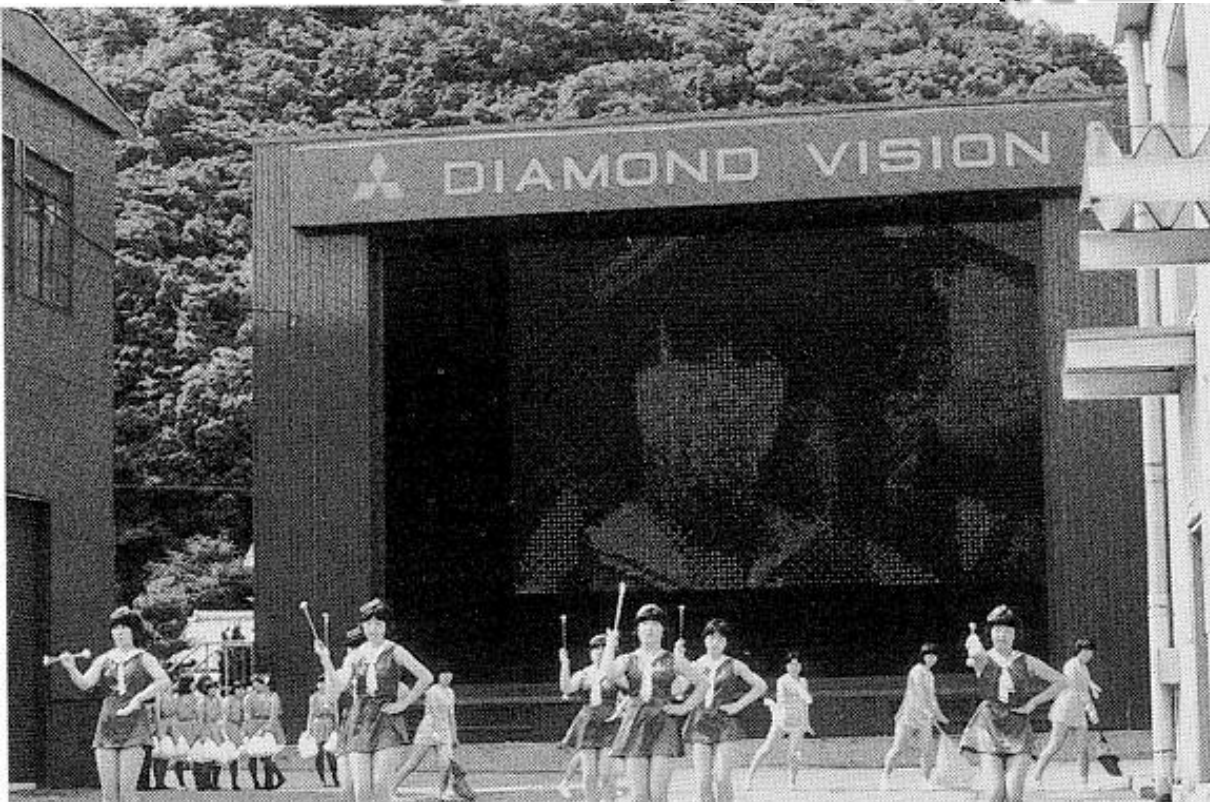
個々の光源管にひさしを付けてデモ



三菱電機資料

信頼性試験の一例

オーロラビジョン誕生時の話題



世界初のオーロラビジョン
米ドジャース球場向第1号機の
試験塔完成によるマスコミへの
公開 (昭和55年5月22日)

※時津工場創立20周年記念誌
三菱電機長崎製作所
平成元年4月1日

米国新聞の反応

Los Angeles Herald Examiner, Wednesday, February 27, 1980 他

・高価なことが話題に(各紙が\$3Mを記載)

日本の雑誌の記事

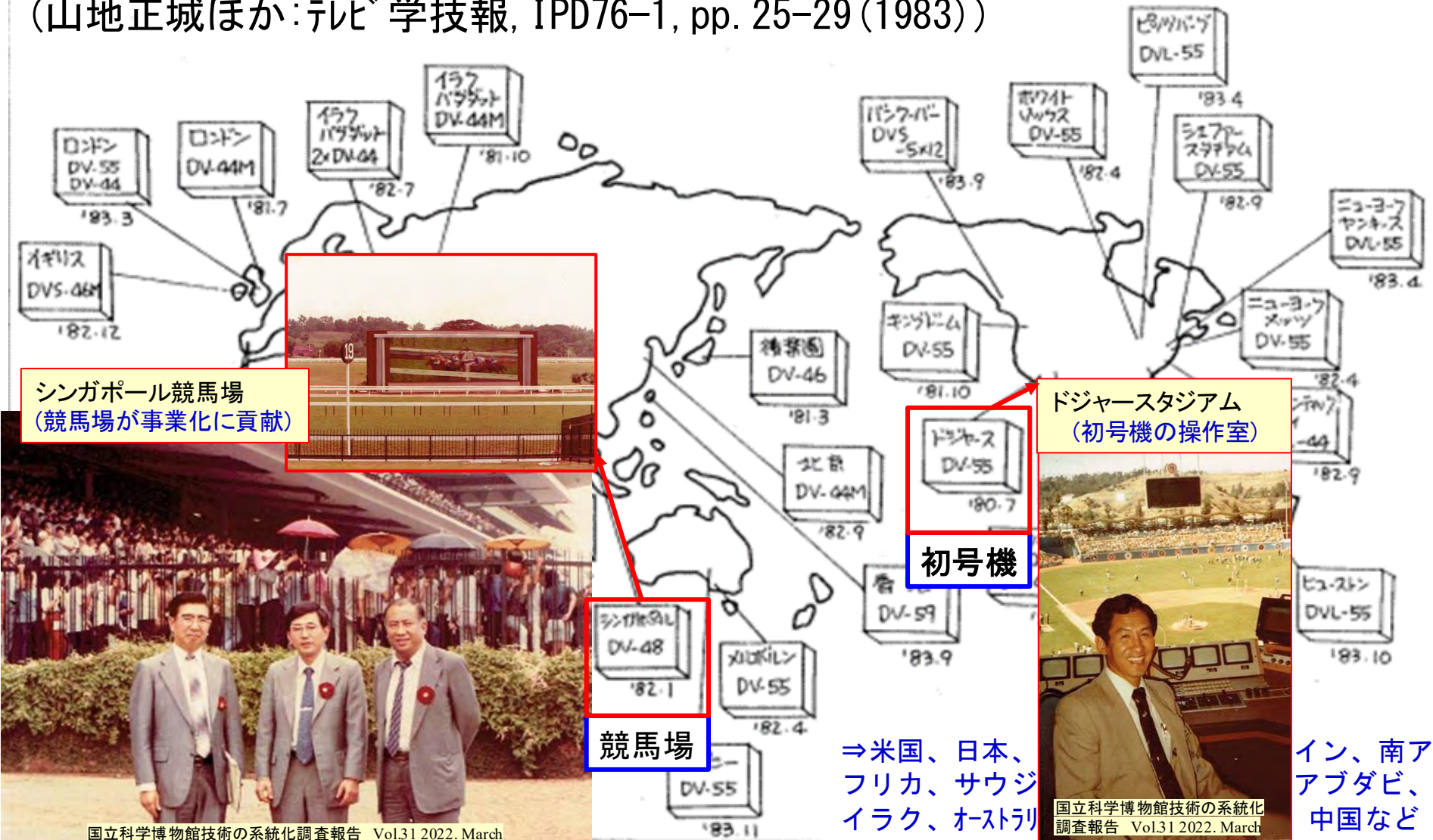
週間ベースボール1980年6月

・価格7億円(6m x 8m)とドジャースタジアムの新名物になるだろう

4-2. 市場開拓

非常に高価：製品寿命は数年とされた

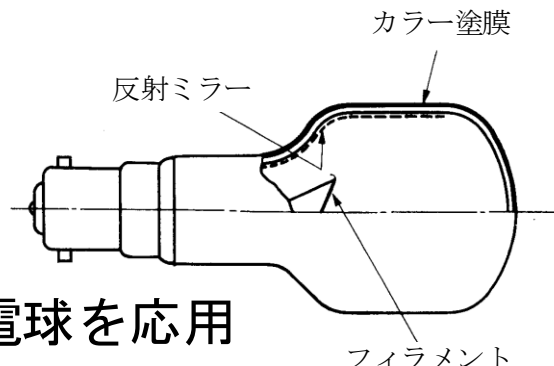
技術者が世界市場を開拓⇒他社参入前の**1983年頃**に約30台納入
(山地正城ほか：テレビ学技報, IPD76-1, pp. 25-29 (1983))



4-3. 業界への影響

アストロビジョン (現パナソニック)

1982年 初号機出荷



白熱電球を応用

高田朝男ほか:“大型映像表示装置(アストロビジョン)”,
テレビ学技報, IPD76-2, pp. 31-36 (1983)

スーパーカラービジョン (東芝ライテック)

1983年発表 1986年初号機出荷

放電管

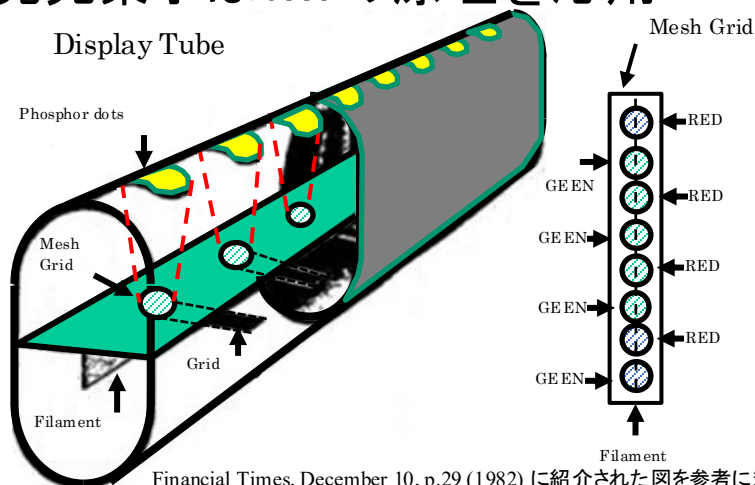


柴野信雄ほか:“放電管を使用した屋外大型ディスプレイ装置”,
テレビ学技報, IYD89-19, pp. 2124 (1989)

スタービジョン (英国EEV)

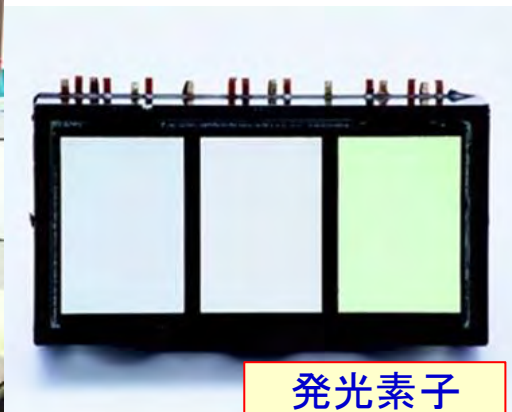
1982年 Financial Times,

発光素子はCRTの原理を応用



Financial Times, December 10, p.29 (1982) に紹介された図を参考に筆者作成

ジャンボトロン (ソニー)



「写真提供」元ソニー張間廣信

4-4. 社会への影響

コンテナ方式1982年

- ①コンサートやイベント
観客を満足させる運用
- ②コンテナ方式や移動型
設置の簡素化で普及を促進
- ③電子看板
街の景観を変えた



出荷前のコンテナ方式



オーロラビジョン

世界最大コンサート1983 US Festival



移動型1982年